

# 日常性の重き深部に立ち、 軽やかな日常性に反逆せよ！

## 全学園争連合 結成の 呼びかけ 旧西洋史争

国家権力と当局の強权的な弾圧を不屈の決意を持って、はねかえし、筑波移転物語まで、断乎として永続的に闘う覚悟を固めている諸君！ 我々西洋史争委員は、今後の斗争の方向性として、それに踏まえたい決意と連帯を求めたい。

### ●一つの想像的仮定

具体的な状況の中での自己を問題とし、これを凝視することによって自己を投げ捨てるべき深淵を探し当てることだ。68・69年の学園斗争が獲得した学主運動における新しい質であるとするのなら、我々は我々自身を問題とする所なら出発して居るべき斗争を展開していなければならない。

### ●一つの現実

しなるに、教育大斗争だ。その250日間のバリケード街頭と3月尊厳斗争の中で現象したものは、「観念としての斗争である筑波斗争と、現象としての弾圧への戦術的斗争をこなした。我々が必要としたものは、観念から具体への転化である。これは具体的斗争の場の設定と必要とする。闘争組織そのものを問題とする中なら、現象としてのラディカルさを現出せしめる部隊を必要とする。思想（その為に死ぬる思想）としてのラディカルさなら断乎とした奥出実行部隊の創出にある。

### ●現実の現実

しなれ、教育大のバリケードはそのチャ・チに家徴されるが如く、その奥はカエルとナメコジとハビの相互依存の中を弱々しくハビがデバ、デバしたようなものであった。そのハビとは、結局、希薄なガス状のモヤであった。我々はバリケードという真空創出装置をめぐり歩いたなら、その中で新しい「根に反逆する人間」を造り出すこと無く放棄されてしま、たのだ。そして3月尊厳斗争は250日間のハネッカイとリとしてあり、戦術的ラディカリズムの3週間の後、斗争の質として何らの転換も高次元化もなれず、ジリ貧状態に陥入、てしまった。

### ●想像的仮定は現実を告発する

具体的日常の中なら問題を振り当て、自己の奥を踏まねばならぬ深淵を啓示と感動によって掘り出し、我々は最も重く、高き飛翔を自分のものとできる。しなれ、筑波斗争が「観念の斗争」として我々の外に在り続けたことによ、て、我々は、我々自身、学主としての我々自身の存在を何う問題することなく斗争しえた。単位取得は可能であろう、卒業就職は大丈夫であろう、その内終るであろうという疑問に「あろう」続きでぐらぐらと継続した我々の斗争は、従、て我々は、6・10・6・20決定の白紙撤回されたことすらくそのことは筑波問題だ、日本資本主義の科学技術政策、教育政策の中で、世帯不可決するものとしてある以上、ありえぬことである。しなれ何ら及の強力を取相話し、同じ路線の結末として「勝利」に斗争として終った場（）すんなりと授業へ復帰するといふ斗争として終始した。筑波研究学園都市を想い、粉砕といふ日本の教育体制再編の、の重要な環を問題とし得ても、自己を具体的にやんゆりと奥淵の如く、くみこんでいた現行大学制度そのものに我々の否定の锋芒は向けられず、従、て我々は自らを告発することなく権利として斗争していたという茶番、この筆は頭と心臓の内にたたきこんで置くべきである。

### ◎ 想像的仮定は絶対的存在である

諸君、斗争あるとは何如なることか。弁別と否定することは、それのみで充足し、貫徹しようものな。否定する対象が一つの社会組織またはその分を物である以上、その内には否定的な思想が潜んでいて、我々自身についての否定がないのなら、それは結局のところ、単なる権力の移り変わりの手段に過ぎない。我々は終局的に権力の全てを滅却させたいが故に斗争する。即ち、対象的に存在する固定化した権力、抽象化された権力の存在に対する斗争は、自己の内なる権力的なるものへの否定を媒介としてそのみ個別斗争でありながらあらゆる権力に向けての斗争へと転化するのだ。権力とは生産関係の基盤としての抽象化された人間関係の総体を動かす力のことである。従って権力への斗争は自己をこの権力のアミの目から脱却させる自己否定を出发点とし、同時に対象の否定を実現してゆく過程で自己権力を打倒してゆく過程でもある。それは一つの偉大な「無化」である。無化を無化として貫徹していく過程で至るものも、動きのものである。それは一つの偉大な「無化」である。無化を無化として貫徹していく過程で至るものも、動きのものである。それは一つの偉大な「無化」である。無化を無化として貫徹していく過程で至るものも、動きのものである。

### ● 一つの決意 — ひたすら否定と人は言えども、想像的仮定は現実にくらいつくのだ —

現在の斗争以上の様な我々のイメージを具現すべく新たな斗争を展開する。觀念としての斗争の意識をもつ断片とした斗争へ取換る為には、我々自身は、我々のイメージと一致し、我々は、我々のイメージを具現すべく新たな斗争を展開する。觀念としての斗争の意識をもつ断片とした斗争へ取換る為には、我々自身は、我々のイメージと一致し、我々は、我々のイメージを具現すべく新たな斗争を展開する。

現在、我々の斗争校、個別斗争の枠を突破して、政治的権力との直接的対峙に至ったことは、即ち我々の意識の新たな次元と重なり種子の標本未来ももたらす全ての日常性そのものと共に我々を喰ひ込み、それと共に進することを求めて斗争を展開していかねばならないといふ覚悟を持つ。即ち、我々は日常性をもその日常性の中へ導入し、日常性を破壊する為には、日常性その源泉に接する偉大な意志に身を置く必要がある。と此こそ最も重き覚悟を続けることであり、自己否定の無限連続である。

### ● 一つの呼び掛け — 決意と断片とした実践を我々は具現しようとする —

現在の斗争の具現とクラスの状態を批判的に統括する中から、我々は新たな結集態を創設して斗争を具現すべく決意した。全斗争の再編強化を具体的な斗争をもって具現し、終局的には全斗争をのりこえて、全斗争の具現を具現すべく、我々は以下の基軸を創設した。この二つを以て、夜の襲撃において革命性を究むる器としての呼び掛けに答えて結集せよ。

「結集基軸」

- (1) 策動斗争を連続的に行う決意
- (2) 策動誘致阻止、研究学園都市相模編隊
- (3) 大学の帝国主義的復讐精神、中教審警備編隊
- (4) 学生として自己の存在の証明

大学闘体

講座制—クラス解体 → 教授会解決  
 クラスを原初の枠を突破

我々の結集態を「全斗争」と名付けよう。在野加盟制をとり、求むるもの、戦勝を希望する団体としての実効的部隊を構築するのなどの目的である。加盟は主体価値人として断片として行われ、全斗争すべく、単独でピラを書き、しなもどれを「全斗争」の名をもって実行するのである。針と道った独自の行動を展開するのである。従って加盟者は各々が組織者であり、代表としての責任を負う。且つ、日常性の中に反抗する。且つ、日常性を名乗れ、全斗争の代表として行動すべく、日常性の重き束縛を打破し、日常性に反抗せよ。